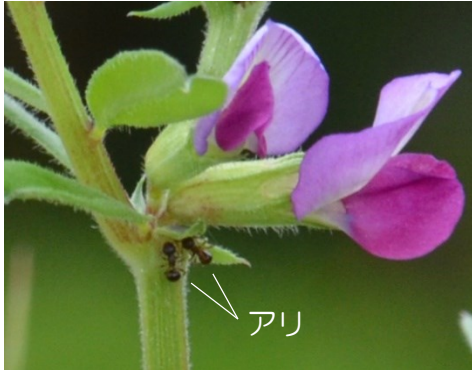


No.495

2019年6月

カラスノエンドウのひみつ

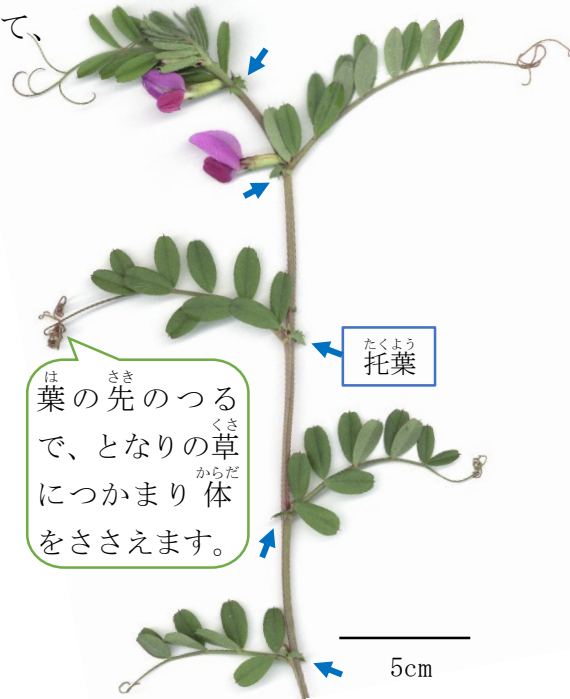


春、道ばたや空き地で、ピンク色の小さな花を咲かせるカラスノエンドウ。近寄って見ると、アリが葉のつけ根で何かしています。葉のつけ根には小さな葉（托葉）があり、その黒っぽいところで、アリは口を動かしています。黒っぽいところは蜜腺で、そこから出る蜜をアリは飲んでいるのです。カラスノエンドウは蜜をわざわざ出して、

アリに来てもらっています。どうしてでしょうか？

それは、アリは虫も食べるので、カラスノエンドウを食べる虫がアリに捕って食われることや、アリをこわがって来ないことをあてにしているのでしょう。たしかに、葉を食べられているカラスノエンドウはあまり見ません。

しかし、茎の先にはアブラムシがよくついています。アブラムシは茎にストロー状の針をさして汁を吸うので、カラスノエンドウにとっては困った害虫です。でも、アブラムシはおしりから蜜を出すため、アリにとっては大切な虫なので守ります。アリを利用して虫を追いはらうカラスノエンドウの作戦は、葉を守れますが、茎から養分を吸い取るアブラムシには効かないのです。



はな 花



カラスノエンドウは、ほかにも生き残るためのひみつをもっています。

した はな
下の花びらをめくると、おしべとめしべが見つかります。
めしべの根もとにも蜜を出す蜜腺があります。蜜をなめられるのは、花びらの間に頭をつっこんで、舌をのばせる虫だけです。おしべの花粉は、そんな虫の体について運ばれます。

さや



はな
花のあとに、豆（種子）の入ったさやができます。種子が熟すと、さやは黒くなり、たてにさけます。さけるしくみは、左右のさや面が逆方向にねじれるからです。ねじれることで、さやの中の種子をとばせ、離れたところでなかまを増やせます。

(坂井奈緒子)

こんげつ
今月のかがくのギモン：カラスノエンドウという名前は、なぜつけられた？
(答えは当館ホームページを見てください)